

シリーズ第9回 この本をあなたにも薦めたい



『街道をゆく』全43巻 司馬遼太郎著 地域の歴史・民俗などについて、調べてみるのが大好きで、その分野とか時代にこだわらず学習させていただき、それを楽しんでいる80余の老人です。その老人に「この本を若いあなたにも薦めたい」という機会をいただきました。その時パッと頭に浮んだのが、司馬遼太郎著『街道をゆく』です。

この本を若いみなさんにお薦めしたいのは、次にあげる3つの理由からです。
1. 街道をゆくとなっていますが、これは単なる〇〇街道印象記でなく、司馬遼太郎が日本の国土や日本人の過去と現在について感じているテーマを、ある特例事柄の考証、地域の景観描写や人物とその会話などを挙げながら、彼特有の考証と表現でまとめた範囲を意味すると私は思います。だからどの1巻も心に響きますから読んでください。

2. 『街道をゆく』というのは、1971年(昭和46)にはじまり、司馬遼太郎の急死で、中断する1996年(平成8)まで、この間25年間、司馬遼太郎は『街道をゆく』を書き続けました。みなさんは研究題や活動課題をもって、毎日の活動を展開されているお方ばかりですが、それでも年1~2回は日本国内のどこかへ旅にでる機会はあるでしょう。その時が『街道をゆく』のどこかと結びつく場合も十分あります。読んでください。

3. みなさんは学習活動の一環として、各種の図書館を利用される場合も多いと思います。幸いどの図書館にも司馬遼太郎著『街道をゆく』は書架にあると思います。書架から一冊を取り出し、その場で読んで楽しむのもいいですね。読んでください。



『街道をゆく』全43巻 作者: 司馬遼太郎 出版社: 『朝日文庫』

『二十四の瞳』の上演に向け 支援金300万円を寄贈

2009年(平成21年)7月31日(金曜日)

戦争中の悲劇『二十四の瞳』



8月の公演に向け練習する児童ら

第二次大戦中、島に居住した新任女教師と子どもたちの物語。今、再び、この物語を、戦争中の悲劇として、児童らに伝える。『二十四の瞳』は、第二次大戦中、島に居住した新任女教師と子どもたちの物語。今、再び、この物語を、戦争中の悲劇として、児童らに伝える。『二十四の瞳』は、第二次大戦中、島に居住した新任女教師と子どもたちの物語。今、再び、この物語を、戦争中の悲劇として、児童らに伝える。

16日は恵那文化センター

16日は恵那文化センターで公演。15日、16日の2日間、恵那文化センターで公演。15日、16日の2日間、恵那文化センターで公演。

奨学会からのお知らせ

平成21年度後期奨学金支給のための「生活学業状況報告書」の提出は11月1日~20日となっておりますので、期限厳守で提出して下さい。

財団法人 伊藤青少年育成奨学会事務局
〒507-0062 岐阜県多治見市大針町661-1
TEL 0572-20-0800(直) FAX 0572-29-1168

『言志四録』舞踊に 助成金200万円を贈る

2009年(平成21年)5月13日(水曜日)



伊藤理事長から助成金の目録を受け取る市川さん(左)と恵那市役所で

『言志四録』は、江戸時代の儒学者佐藤一斎(一七七二~一八五九)が記した「言志四録」を、舞踊で表現する会役員市川雅志(市川さん)と、市川さん(市川さん)の計画により、助成金が贈られた。六月十七日、多治見市役所において、市川さん(市川さん)と、市川さん(市川さん)の計画により、助成金が贈られた。六月十七日、多治見市役所において、市川さん(市川さん)と、市川さん(市川さん)の計画により、助成金が贈られた。



市川さん(左)と、市川さん(市川さん)の計画により、助成金が贈られた。



市川さん(左)と、市川さん(市川さん)の計画により、助成金が贈られた。

E-mail: webmaster@ito-zaidan.or.jp
U R L: http://www.ito-zaidan.or.jp/
発行: 財団法人 伊藤青少年育成奨学会
印刷: トーヨー印刷株式会社

伊藤青少年育成奨学会 奨学会だより

2009.10.9 vol.9 年2回発行 (4月・10月)

■平成21年度スポーツ振興事業贈呈式 贈呈式が行われました
■先輩からの便り紹介
■奨学生の声の紹介

シリーズ第9回 この本をあなたにも薦めたい



財団法人 伊藤青少年育成奨学会 理事長 伊藤 喜美

平成21年度スポーツ振興事業贈呈式 スポーツ振興事業費など総額1,000万円を支援

奨学会は去る7月6日、多治見市東町のセラミックパークMINOで、平成21年度の贈呈式を行った。奨学会は平成11年設立後、積極的な活動をしている高校の運動部を対象に、毎年部活動費の贈呈を実施している。贈呈式には来賓として岐阜県教育委員会 松川禮子教育長をはじめ学校関係者ら約40人が参加。伊藤理事長は「青少年育成は社会の使命。少しでも手助けしたい」とあいさつした後、学校関係者らに目録を手渡した。贈呈式の概要は次のとおり

伊藤理事長は「青少年育成は社会の使命。少しでも手助けしたい」とあいさつした後、学校関係者らに目録を手渡した。贈呈式の概要は次のとおり

伊藤理事長は「青少年育成は社会の使命。少しでも手助けしたい」とあいさつした後、学校関係者らに目録を手渡した。贈呈式の概要は次のとおり

設立より10年間の事業費

年度	奨学金	スポーツ	国際交流	その他(伊藤賞職員を含む)	合計
平成12年度	4,800	13,100	3,000	—	20,900
平成13年度	9,600	10,700	3,000	500	23,800
平成14年度	21,600	6,100	3,000	200	30,900
平成15年度	28,800	10,000	3,000	200	42,000
平成16年度	25,200	10,000	13,000	1,300	49,500
平成17年度	26,280	11,500	3,000	4,000	44,780
平成18年度	31,080	10,400	3,000	3,000	47,480
平成19年度	35,040	11,300	—	—	46,340
平成20年度	37,380	13,310	1,500	2,000	54,190
平成21年度	37,080	8,700	—	6,800	52,580
合計	256,860	105,110	32,500	18,000	412,470

恵那市中央図書館~伊藤文庫~について
当財団は平成19年度事業として上記事業のほか恵那市へ図書館を寄贈しました。建物10億円ならびに23,000冊の書籍、運営費等1,500万円を寄贈総額は合計で101,500万円です。

奨学会では、設立10周年を記念して文化講演会を開催します。

日時 平成21年10月18日(日)
開場 16:00~
開会 17:00~
講師 養老孟司 東京大学名誉教授
演題 「子どもたちの未来のために」
会場 恵那文化センター(入場無料)

②伊藤喜美賞(就農奨励金:岐阜県農業大学校平成21年度卒業生)

氏名	専攻	金額(円)
辻 麻未	畜産学科 肉用牛専攻	500,000
山口 貴範	野菜・果樹学科 野菜専攻	500,000
西尾 優子	畜産学科 酪農専攻	500,000
合計		1,500,000

総計 10,000,000円

23運動部に資金援助

伊藤青少年育成奨学会 多治見で目録贈呈

伊藤喜美理事長から目録を受け取る高校運動部の顧問ら=多治見市東町のセラミックパークMINO

県内の高校の運動部を贈呈した。伊藤理事長は「これからの時代を担う若者を伸ばすのは社会の使命だ」とあいさつ。岐阜県教育委員会 松川禮子教育長をはじめ学校関係者ら約40人が参加。伊藤理事長は「青少年育成は社会の使命。少しでも手助けしたい」とあいさつした後、学校関係者らに目録を手渡した。贈呈式の概要は次のとおり

平成21年度(財)伊藤青少年育成奨学会スポーツ振興事業等被援助団体及び援助額

①県内の高校運動部に対する支援

学校名	部名	金額(円)
岐阜高等学校	硬式野球	600,000
長良高等学校	男子バレーボール	200,000
羽島北高等学校	サッカー	350,000
岐阜総合学園高等学校	女子バレーボール	300,000
県立岐阜商業高等学校	女子バレーボール	230,000
岐阜盲学校	ゴールボール	400,000
岐阜東高等学校	硬式野球	500,000
岐阜第一高等学校	ラグビー	410,000
大垣南高等学校	フェンシング	520,000
大垣西高等学校	ラグビー	500,000
大垣商業高等学校	水泳	400,000
海津明誠高等学校	ヨット	480,000
大垣特別支援学校	サッカー	150,000
武義高等学校	女子ソフトボール	280,000
関有知高等学校	硬式野球	400,000
東濃実業高等学校	女子ホッケー	320,000
土岐商業高等学校	女子バレーボール	420,000
恵那高等学校	サッカー	180,000
中津高等学校	新体操	260,000
中津商業高等学校	硬式野球	500,000
東濃特別支援学校	剣道	300,000
中京高等学校	サッカー・バスケット・陸上	300,000
合計	22校・23運動部	8,500,000





先輩からの便り

紙面の都合により一部の方からの便りを掲載しました。

2009年3月ご卒業の方からのお便りです

加藤 久美子

愛知淑徳大学コミュニケーション学部言語コミュニケーション学科卒

拝啓

春暖の候、貴財団におきましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

貴財団には今年3月までご支援を頂き、本当にありがとうございました。大学生活の4年間はあっという間でしたが、とても内容が濃く充実した時間であったと思います。

私が愛知淑徳大学に進学を決めたのは、コミュニケーション学の勉強をするためと、母語である日本語についての知識を身につけるためでした。4年間を通して多くの日本語とコミュニケーションについての科目を受講し、様々な知識を得ることができました。特に自分の専門であった日本語の授業では、日本語教育法や文章の書き方、日本語の語彙について、文の構成や発音についてなど、多くのことを学びました。その中でも最も印象に残っているのは、3年次に参加した日本語教育海外研修と、4年次の卒業論文のプロジェクトです。

日本語教育海外研修では、日本語学科のある大学で毎日実際の授業を見学させて頂き、最後には授業の進度に合わせた教案を作成し、1コマ分の授業を担当させて頂きました。日本語教育について机の上で学ぶだけではなく、自分自身で実践できたことで、より多くのことを学ぶことができました。卒業論文のプロジェクトでは、それまでの勉強の集大成として、自分にとって最も身近なコミュニケーションの1つである携帯電話をテーマに選びました。アンケートの結果を分析するのに多くの時間を要しましたが、新しい発見も多くあり、楽しみながら論文を書き終えることができました。同じゼミの仲間の発表を聞くことでも多くの発見があり、日本語について様々な視点から考えることができました。

今年の3月19日に無事に大学を卒業し、成績についても一度も単位を落とすことなく、すべてA評価以上を頂くことができ、自分でも納得のいく結果で大学生生活を終えることができました。このように大学生活で自分にとって大きな経験を積むことができましたのも、貴財団のご支援があつてのものです。4月からは信用金庫に就職をし、社会人としての生活が始まりました。大学入学時に目標としていた日本語教師とは別の道を歩むことになりましたが、お客さまと接する上で、コミュニケーションの知識など大学で学んだことを実践する場面もあるかと思います。金融についての知識など新しく学ばなければならぬことが多くあり、とても大変ですが、早く地域の皆様に貢献ができますよう、努力を重ねていきたいと思います。4年間という長い間のご支援をして頂き、本当にありがとうございました。末筆ながら、貴財団のますますのご繁栄をお祈り申し上げます。

敬具

船阪 治代 金沢大学薬学部総合薬学科卒

少しずつ春らしい気候となつてまいりましたが、皆様健康でお過ごしでしょうか。

薬剤師になって、人々の健康に貢献したいという目標のもと、4年間必死に勉強してきました。

レポートや試験に半泣きになりながら取り組んだ日々は、本当に大変だったけれど、自分の興味のある薬学を学べることはとても嬉しく、今振り返ると、とても充実した時間を過ごしていたんだなと感じています。

また、アルバイトや部活動、寮生活など、様々な経験を通し、色々な壁にもぶち当たりました。しかし、その度に、家族や友人に支えられて乗り越えることができ、多くの事を学びました。

大学生活は、楽しい事も辛い事もたくさんあつて、自分の世界観が大きく変わり、大学に進学したこと、大学生活を送ることができたことを本当にありがたく思っています。

このような充実した4年間で過ごすことができたのは、伊藤青少年育成奨学会の皆様ののおかげだと心から感謝しております。

辛い時の大きな支えとなったのは、家族の存在、自分の目標、そして伊藤青少年育成奨学会の皆様が支援して下さいっているという思いでした。

本当にありがとうございました。

4月からは地元へ帰り、調剤薬局に就職することになっています。

目標である、人々の健康に貢献できる薬剤師になれるよう、大学で学んだことを生かし、日々精進していきたいと思っています。

本田 真波 金沢大学教育学部人間環境課程臨床教育心理コース卒

拝啓

長雨の候、貴会ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

遅ればせながら、この春に大学を卒業し、就職しましたことをご報告させていただきます。

現在、私は新潟県にありますコンピュータ関連の会社に勤めております。私が配属された部署は、主に医療・福祉関連のシステムを扱う部です。大学までとはまた違った分野ということで、様々なことを学びながら毎日を過ごしております。

まだこちらでの生活に慣れきつてないせいか、数ヶ月前までの大学生活を懐かしく思い返します。

金沢大学で過ごした4年間は、私にとって本当にかげがえのないものとなりました。これまで過ごしてきた中で、一番充実していた時間と言っても過言ではないと思います。

すっかり私の第二の故郷となった金沢の街並。そして何よりここで出会ったたくさんの人々。その一人一人の存在にどれだけ支えられていたことか、新しい地で新しい生活を始めてみた今、改めて気づかされます。

さらに、今の私の支えとなっているのも、大学生活を通して出会った仲間達の存在であるといえます。金沢でサークルに熱意を注いでいる後輩たちがいる。また、別の場所では自分と同じように新社会人としての道を歩き始めた同輩がいる。そう考えると、自分もこの場所でがんばっていこう、と思えます。

高校生の時には進路に関して多く悩みましたが、この道を選んで本当に良かったと思いますし、幸せでした。

このような大切な時間を過ごすことができたのも、両親、そして御会の皆様のおかげのご支援のおかげだと思っております。本当にありがとうございました。

これからは、今まで自分を支えて下さった方々への恩返しの意味を込め、社会を支える一員として仕事に邁進していきたいと思います。

今後も御会が益々ご発展し、そして一人でも多くの学生が充実した学生生活を過ごされることを願っております。

敬具

奨学生の声

.....2009年4月までに提出された学業状況報告の一部です。

吉村 光平

慶應義塾大学理工学部管理工学科2年

1年次は全ての科目が基礎科目でしたが、今年度から学科配属が決まり、選択制の専門科目が始まりました。私の進んだ管理工学科は、簡潔に言えば、理系と文系の中間にある学問です。科学技術の進歩により、それに伴う機器やシステムは肥大化、複雑化が進んでいます。

管理工学はそれらを実社会にうまく導入、活用する手段です。

私は都市工学の観点からエネルギー問題について考えていきたいと思います。ただ経済成長や生産性を追求するだけでは、有限な資源を浪費し、地球環境を崩壊させかねません。事実、発展途上国の急成

大橋 賢人

名古屋大学法学部法律・政治学科2年

私は将来は外交官として働きたいと考えていて、日本を含む世界の様々な文化に対する理解を深めるための第一歩は言語だという思いもあるため、大学在学中にも多くの言語を学びたいと思っています。そこでまず今年度は必修の英語と選択のフランス語に加えてラテン語と古典ギリシア語を学びました。フランス語、さらにはラテン語、ギリシア語というのは、しばしばとても難しい言語だと考えられていて、確かに英語よりも複雑な語形変化を持っていますが、やはり同じインド＝ヨーロッパ語族に属し相互に影響し合ってきたために、文法や語彙に共通性が存在しているということ強く実感しました。

例えば「劇場」を表す英語theatre(theater)は、フランス語ではthéâtre、

青木 拓也

大阪大学工学部環境エネルギー工学科2年

1年生後期は、今後自分がどのような道に進むかを決めるために勉強した期間でした。私の学科は、原子力、都市設計、汚水処理…ととても広い分野を扱っています。また「環境問題を解決する」ためには、何が問題で、何に目をつけるかを考えることが第一です。そこで、今後の目標設定のためにまず教授と院生の方を招いての座談会を学科の友人達と計画しました。そこで、教授の話や友人達との議論を通して、環境問題の解決には経済的なアプローチが不可欠だという考えをもつようになりました。授業で様々な最新技術について習いましたが、多くがコ

丹羽 沙織

三重大学生物資源学部生物圏生命科学科3年

講座の配属がされてから、海洋生物に関する生態系や遺伝子学、環境問題など、幅広い分野の授業を受けています。その中で後期に大変興味を持ったのが、食品デザイン学実習です。この実習では、まずカツオの缶詰を作ることから始まりました。カツオを自分でさばき、1つ1つ手作業で缶に詰めるのは、とても貴重な体験でした。そして、この実習をもとに、班ごとに別れて、自分達オリジナルの缶詰を作りました。私の班は豆腐を使ったヘルシーなロールキャベツ缶に挑戦しました。しかし、ただ作ったロールキャベツと、缶に詰めたロールキャベツで

渡辺 友梨

白鷗大学教育学部発達科学科3年

先月、知的障害者施設への実習に11日間行ってきました。私が専攻しているのは児童教育なので施設での実習は抵抗と不安がとてもありました。しかし、行くからにはしっかりとした目標を持ち、学ぶという姿勢で行こうと思いました。初日は慣れない事ばかりで、障害を持った方と接する事に怖さがあり、なかなかうまくいかなくて、とても心配でした。2日程経って、徐々に慣れ、少し要領もわかってくと、実習が本当に楽しく、何日後にお別れするのを寂しく感じていました。主な実習内容は、利用者の方ができない事を援助したり、仕事を一緒にしたり、コミュニケーションを取るなどでした。一番大変な排泄、食事介助や健康管理などをやっていないので、楽しく感じたのかもかもしれませんが、行く前は全く関心が無かったのですが、

田口 五基

京都橋大学文学部文化財学科3年

2月の末から3月はじめの9日間、中国へ研修旅行へ行ってきました。日本の文化は中国からの輸入文化と言われることがありますが、今現在中国と日本で成立している文化は、各々の国独自のものであることが2国を比べてはつきりました。共通点はありますが、表現や様式の違いはモノを前にしたら一目瞭然でした。博物館などを多く訪れ、古い文物を見ましたが、日本の古いそれとはやはり異なるものでした。
古来日本は大陸(中国半島)から多くの文化や技術を輸入しましたが、その段階で既に“日本らしさ”が付加されたのだと思います。人々の意識や形成過程(目的)の違い、国風も交じり、同じモノを作ったとしても、“中国のもの”にはならなかつ

長により、マクロな視点で社会システムを構築するニーズは高まっています。

学問の対象が社会であるため、理系であっても、経済学、法学、社会学などの素養が必要です。常に社会に目を向けながらも、理系であるゆえの論理的思考を生かしていきたいです。

奨学会からのコメント	南部陽一郎博士も旧制高校の頃は哲学を志向。が、日本の為に実学をと物理の道に進んだとか。この深い思惟と情緒が『自発的対称性の破れ』理論の発想に。文・理の大なる包括を！
-------------------	--

ラテン語ではtheatrum、古典ギリシア語ではθέατρον(theatron)となるのですが、このような語源的なつながりはおそらく現代西洋語に数多く残されていて、語彙を、さらには文化をより豊かなものにしているのではないかと思います。同様のことは、古文(古典日本語)や漢文(古典中国語)が現代日本語に残す影響についてもあてはまるはずです。古今東西の様々な文化圏や民族が発達させてきた言語を知ること、その文化を理解する上で大切な一要素だと思うので、これからも可能な限り多くの言語について、可能な限り深く学び、身につけていきたいです。

奨学会からのコメント	塩野七生曰く「外交官を外交官とあらためよ。交流ばかりで政治をやっていない。」日本の代理として果たすべき命題は？
-------------------	---

ストが高く、実用化には至らないものでした。それでは意味がないので、今後は技術開発はもちろんのこと、コストダウンや社会システムの整備など、技術を実際に社会へ実用的に普及させるための考えや知識を身につけていこうと思います。

奨学会からのコメント	さすが阪大らしいしぶとい実学の匂いがします。技術立国日本としては環境問題解決プラン設備一式、ブランドとして世界に輸出。地球規模の環境問題解決とともに日本も潤うという一石二鳥の実現を待っています。阪大・青木君ならできる！
-------------------	---

は、味も食感も変わってしまい、最後までうまく作るできませんでした。こういった経験を通じて、製品ができあがるまでには大変な苦労があるのだということを身にしみて感じました。また、苦労だけではなく、試行錯誤しながら製品を作り出すことの楽しさも発見でき、とても充実した実習となりました。

奨学会からのコメント	三重大の海洋生物資源系の実績は人口に膾炙しています。食品デザインの实習も面白そう。だがそんな余裕も豊かな日本であるから。世界の飢えを一掃できる食品はないものか。
-------------------	--

このような仕事も良いなと興味を持つことができました。利用者の方の中には、噛みついたり、髪を引っ張ったり、泣いたり、叫んだり、何を言っているのかわからないといった方が多くおられました。が、1つ1つの行動が、その人なりのコミュニケーションの取り方なのではないかと、実習で感じました。3年生となり、夏には保育実習があるので、この実習の経験を活かせるようにしたいと思っております。

奨学会からのコメント	夏の保育実習はいかがでしたか。実社会では自分の望むことばかりが出るわけではない。そんな時自分が望む仕事ではない、といって自分自身の可能性をせばめないで。その仕事の意味を探究することも人生にとって糧になると思います。
-------------------	---

た。文化・国風というものの面白さを感じました。中国では多くのものを目にし、耳にし、とても勉強になりました。また、めつたに見れない陵墓の保存壁画なども見られ、とても貴重な経験となりました。充実した旅でした。3年生となり、ゼミは考古学を専攻しています。実際のモノを見て、よく考え、それを深める姿勢を大切に、これより1年、また楽しみながら学問に取り組んでいきます。

奨学会からのコメント	S・ハンチントン著『文明の衝突』等々、日本の文明・文化を中国の亜種ではなく独立したものととらえる見方が近年は優勢。百聞は一見に如かず、研修旅行は勉強になりましたね。
-------------------	--